

流山市総合計画後期基本計画策定に伴うタウンミーティング議事録

- 1 開催日時 平成21年9月5日(土)
午前9時40分から11時40分
- 2 場 所 北部公民館
- 3 出席者
(1) 市民(34名) 自治会22、NPO等6、その他6

(2) 出席職員等
(特別職) 井崎市長
石原副市長
(施策担当部長) 阿曾都市整備部長
志村土木部長
吉田市民生活部長
渡邊学校教育部長
海老原生涯学習部長
高市健康福祉部長
沼沢子ども家庭部長
池田産業振興部長
染谷企画財政部長
(担当課) 水代企画政策課長
安井企画政策課長補佐
- 4 配布資料
書類1 後期基本計画(素案)の広報特集号(9月5日号)
書類2 会場説明資料(スクリーン表示内容)
書類3 分野別計画事例
書類 後期基本計画素案に関するアンケート

5 意見交換

井崎市長あいさつ、染谷企画財政部長による特徴説明、水代企画政策課長による内容説明の後、安井企画政策課長補佐の進行で意見交換を行った。

(市民)

疑問に思うことであるが、パブリックコメントはどう解釈すればよいか説明をお願いしたい。また、リーディング事業とあるが、なぜリーディング事業か、説明では優先事業という説明をしているが、リーディング事業と表記している。カタカナ語を減らして欲しい。パブリックコメントで何を言えばよいのか、表題をみて、中身がわかるようにして欲しい。

(市)

ごもっともなご意見だと思う。パブリックコメントは、広く市民からご意見をいただき、反映できるものは後期基本計画の中に反映させていただきたい。カタカナ語を使う場合であっても、分かりやすい説明をつけていきたい。

(市民)

わざわざ説明をつける必要は無い。

(市)

十分に考慮させていただきたい。

(市民)

3つのパラダイムという話の中で、2つ目の地方分権、市民自治のまちづくりの時代に入っていくということに、強く興味、関心を持っている。広報を見てきたが、2 - 6にあるコミュニティの推進が重要なテーマであると思う。4つ目のコミュニティ活動の場の確保を支援し、促進する、ということは非常に大事なことであると感じる。

年寄りが増えるという話があったが、市民の活動、生涯学習活動は盛んになっており、公民館の部屋が借りられない状況もある。小学校単位のコミュニティセンターをつくるとか新しい提案もある。しかし、民間の知恵を借り、展開しようとしている公民館をコミュニティ活動の核として位置づけ、どのようにしていくのかを、もう少し審議されるべきと感じた。素案の中に公民館という言葉が一つもない。地域の場の展開について、ご審議いただきたい。

(市)

公民館の利用時間の区分を3分割から4分割に改善した。4分割したことにより、25%以上使えるようになった。コミュニティづくりの中で、公民館という言葉が入っていないということなので、検討したい。

なお、パラダイムは、時代の潮流ということで説明している。

(市民)

この街のなかには、日本人が多いが、外国人も住んでいる。日本語の広報だが、外国人は日本語がわからない。どういうふうにコミュニケーションすればいいか。一緒に行っていかなければいけないと思う。

(市)

広報の内容について、ゴミ出しとか、緊急のこと、新型インフルエンザ対応のことは、ホームページではあるが、広報ではできていない。住んでいる外国人の方に対しては、おっしゃるとおりだった。しかし、広報を日本語でつくるだけでも大変な状況である。流山市は千葉県の中で市民あたりの職員の数が最も少なくなっている。広報を3人でやっているという、よくやっていますね、とされている。

コミュニケーションの方法、外国人に対する説明会、広報については、検討していきたいので、ご提案もいただきたい。

(市民)

休耕田についての表現が無い。広報の最後のほうに、5 - 4にあるが、重点施策ではない。流山はこれでよいか。休耕田の利用方法を計画の中にはっきり入れたほうがいい。農家の収入はどんどん減っている。民主党が言っているように農家の所得を援助してもらいより、自分たちが働くことができれば、税金を投入する必要はなくなる。流山は農業が主体の市ではないのか。農家の人たちを大切にしていける必要があるのではないか。

(市)

36施策の一つで、どれも大切な施策である。どれも大事である。農業は環境施策としてもこれからも重要である。流山の農家の方は、米作では食べていけないということで、副業になっている農家が多い状況であるが、休耕田を生産活動に使っていただいたり、高齢化してお子さんは外で働いている農家の農地を使えるようにしたりするような、その方法を考えている。環境という観点で力を入れていく予定で施策を検討している。反映していきたい。

(市民)

都市基盤について、アンケートでは道路整備の満足度が50%とのことだが、北部地区ははっきりいって全く整備されていない。市内で格差が生じている。インフラ整備を、先に行っていたきたい。基盤整備を進めていけば、地域の環境も変わってくる。

(市)

西深井の道路が狭く曲がりくねっていることは認識しており、西深井小学校からの道路拡幅などを行っている。まだまだ不十分であるが、全体には手が届かない状況で

ある。西深井小の近くは地主さんの好意により整備できた。

（市民）

運河駅の整備、新川耕地の整備など大きな問題があるが、出ていないのは、西深井の運河沿いの道路の斜面の木が伐採された問題。そのために、道路が崩れている。地域開発に市は許可を出している。全体の計画を見て、組んでいただきたい。

（市）

西深井地区は、市街化調整区域なので、開発を抑制する区域である。しかし、木の伐採の規制は、保存樹林、保存樹木などで指定したり補助したものでないと規制できない。流山市は、景観条例をつくっている自治体なので、1本でも緑が残されるように努力している。道路の問題は、市道整備の方針があって、西深井小学校の周辺は地主の協力があって優先的に整備を進めている。運河の地域でも、まとまりましたら相談いただきたい。

（市民）

総合計画ができた平成12年の犯罪状況をみると、流山市も安定していた。現在の犯罪状況を分析していたか。平成15年に防犯パトロールを立ち上げた。子どもたちの見守りということで防犯パトロールを始めたが、このことについて一言も入ってきていない。流山市の中には、40いくつかの防犯パトロール隊がつくられている。どのように考えていくか。

9月1日の広報ながれやまに、防災無線放送についての記事があったが、放送は火曜と金曜になるという。これまで3時に見守り放送をしていたが、9月から火曜と金曜だけになってしまった。これからの子どもたちの見守りをどうしていくか。取り入れて欲しい。

（市）

素案の説明書には、自主防犯パトロールを入れてある。全員がボランティアで、ほとんど年中無休で行っていただいている、県下でも他には無いパトロール隊もある。全部あわせると6000人を超え、成人の5%、6%が参加する運動体になっている。重要な活動であるし、市としても重視している。

防災無線の変更については、毎日行うことで、2つのことが出てきている。一つは、緊急のときに使うべきものを下校時の見守りに使うということで、目的外の使用である。近くに住んでいる人から、毎日同じ時間に放送しているが、何とか効果のある方法を考えて欲しいと言われている。もう一つは、マンネリ化して、時計代わりに使っている人もいるようだ。防災無線は聞いていただかないと意味が無い。特にこの日は効果が高いということで、週明けの火曜日と開放感が生じる金曜日で実施することにした。週2回にさせていただいたが、いろいろな人がいて、いろいろな意見がある。止めるという話もあったが、苦情のあった人にはそれで了解していただいた。

(市)

広報ながれやまの、2 - 4の一番最後の項目で、自主防犯組織として位置づけている。

(市民)

自治会長となり、関心が出てきた。よくできていると思った。

8号公園、コミュニティハウスの隣であるが、高い滑り台があったが、使用禁止になった。子どもたちが来ていたが、使用禁止になって来なくなってしまった。子どもの声が聞こえることは、防犯にも役に立つという。3月までにやるとのことだが確かか。

(市)

夏休みの前に撤去ということで、タイミングが悪かったと思っている。老朽化しているものについての撤去であり、今年度中に、すべて新しくしたい。9月補正で議会にお願いする。

(市)

遊具については、安全性を考えながら、年度内に新たなものを設置する予定である。極力同じような形で設置する予定であるが、安全性を考えて基準の見直しもあるので、従来に近いものにしたい。

(市民)

都心に一番近い森のまちについて、もう少し説明を加えたほうがよい。

東京のベッドタウンが流山であると思う。人口推計では、昼夜間人口の推計は行っているか。農業の問題とも関連するが、地元で職があって、という施策が入っているか。

流山の大きなまちづくりをどのように考えているか伺いたい。へその無いまちと言われている。つくばエクスプレスの沿線で、おおたかの森が核になって市役所が移るのか。

前回、地区ごとに地区計画をつくった。総合計画で各地区がどういうふうに変わっていくかが示されている。北部地区が、子育て中心のまちになるのか。どういうまちになるのか。そういうものをつくっていただきたい。

(市)

流山市がベッドタウンであることは間違いない。昼夜間人口と、交流人口がある。市としては、交流人口を増やそうとしている。交通アクセスが充実したので、どのくらい交流人口が増えるか。昼夜間別の人口を推計しても精度は低いと思う。交流拠点であるところには賑やかに、交流の場、商業業務の場とする。そのほかの地域は良質な住環境を整備していく。メリハリのついた土地利用、都市機能の整備を進めていきたい。交流拠点は民間にも頑張っていたらいいと考えている。

(市)

大きなまちづくりの課題ですが、市役所移転の計画はない。都市マスタープランでも現在の場所を行政拠点と位置づけている数十年間は現在の場所に市役所があり続けると思う。

へそをつくろうということでTXを進めているわけだが、業務とか商業はおおたかの森を中心にしていこうと考えている。おおたかの森には、支所をつくって納税を含めてサービスが利用できるようにしたい。そのため、路線バス、ぐりんバスを整備していきたい。駅から半径2kmの円を書くと流山市域のほとんどがカバーされる。これだけ交通の利便のあるところは少ない。

(市民)

NPOで地球温暖化防止活動をしている。温暖化対策の記述があり、私どもの活動も行政と一緒に推進していきたい。

基本計画全体を見渡して、効果的効率的、集中と選択の経営ということで、民間の手法を取り入れていると思われる。民間の経営のいいところは大切にしたい。大事なものは、計画を立てることではなく、実行、効果が求められる。何のための計画かを見過ごしてはいけない。施策の推進方策が、一番重要であると考えている。欠けているのが、評価のシステムである。立てた目標をどのように管理していくか。管理した結果の評価をどうするか。それによって職員の処遇の対応、民間で言うとボーナス査定になるが、それを評価していくことは、行政でも大事である。最後のところにもう少しはっきり表示すべきと思う。

アウトソーシングという言葉、協働という言葉、この考え方が、民間の考え方と行政の考え方が一致していないと思う。私も考えていきたい。行政にも考えていただきたい。

(市)

広報の2ページに、流山市総合計画の構成の図がある。以前は、計画をつくることに関心があった。前期基本計画のところで、上期、下期があるが、後期もこれをやると、計画ばかりつくることになる。計画をつくると、次の計画づくりに着手するような状況であった。今回、簡略化して後期では、上期、下期をやめて、その推進に労力を配分することにした。本当にやらなければいけない仕事をやるように仕組みを変えている。達成度調査を毎年行っており、これを反映している。進捗状況については、ホームページに、部長の仕事、課長の仕事の達成度を、公開している。説明責任として、なぜできなかったのかを、きちっと示している。また、達成度、評価に基づいて、部長、課長の評価を行い、加算する方式を導入している。市の方も、運営から経営に切り替えて、推進している。叱咤激励をお願いしたい。

(以上)